

短大生の指導法研究

—「ことばのトレーニング」から—

土 屋 博 映

一、はじめに

「ことばのトレーニング」は、本学1年生の、プレゼンテーションのベーシックなものとして平成16年度より、新カリキュラムの中心となるコア科目の一つとして新設されたものである。本授業の実際の経過をとおして、本授業の反省とこれからのあり方を考えるとともに、一般的な短大の授業のあり方にまで考えをおよぼしてみたい。

二、「ことばのトレーニング」の方向性

1、シラバス

学生に提示された授業概要は次のとおりである。

ことばのトレーニング (1) ～ (15) (安藤靖治・大倉浩・土屋博映・出口久徳・宮下良子)

[授業の目的]

自分の考えを正確に相手に伝えられるようになることを目標とする。正しく話し、書き、さらに自己を論理的に主張するきっかけをつかませたい。

[授業の概要]

自己表現の基礎はことばにある。日本語を正しく使えないことには自己表現もままならない。「私は～する」「私は～だ」を基本とする主述関係の認識とトレーニング、さらには接続関係を用いたトレーニングにまで発展させる。

最終的に可能であれば、3分間ほどのスピーチをさせ、小論文的なものが書けるまで発展させたい。

[授業計画]

第1回 自己表現の基礎 (自己紹介から、自己表現の基礎を学ぶ)

第2回 15秒スピーチ (1) (テーマに基づき、メモをとり、発表し、レポート化する、以下同じ)

第3回 15秒スピーチ (2)

第4回～第6回 30秒スピーチ

第7回～第8回 45秒スピーチ

第9回～第10回 1分間スピーチ

第11回～第12回 3分間スピーチ

第13回 小論文作成

[授業の運営方法]

テーマに対し、メモをとらせて、そのメモをもとに発表させる。その発表を全員で討論し、講義の最後には、そのメモと発表をふまえてレポートにまとめさせる。それを添削して次週に解説をする。つまり、テーマ→メモ→発表→討論→レポート→添削・解説、という一連の流れを持つトレーニングである。

[評価方法]

各担当者から提示があるが、基本として、発表内容、レポートを重視し、出席状況、授業概要なども加味して評価する。

[その他、受講生への注意事項]

「ことばのトレーニング」は積み重ねが大事である。日本語であるが、まさに語学である。真剣に受講し、欠席したり、遅刻したりしないように望む。

以上が、シラバスである。練りに練って作成したシラバスのつもりだったが、こちらの予想通りにいかなかった部分もある。それを実際の授業経過にしたがって記述し、分析し、反省の材料とする、それが本稿の目標とするところである。

2, 具体的な方向性

次に掲げるものは本授業開始前に、本科目の発案者として担当教員に配布したものである。

☆「ことばのトレーニング」担当者の先生方へ H16・3・3(水)作成 土屋博映

★この科目はあくまでも「自己を論理的に主張するきっかけとなる」科目です。

☆「私は～する(だ)」という言い方を基本とし、自己主張と連続させていこうということです。「序破急」で言えば、「序」,「起承転結」で言えば、「起」,つまり与えられた課題に対して、「主題」と言えるものを自分で認識・把握させるようにすることが狙いです。自分の考えを決める、そういう内面的なもの(意思)を言葉として外面に出させるようにしむけることです。だから、こんなことを言うと混乱するかもしれませんが、裏を返せば「心のトレーニング」という言い方もできるかもしれません。

☆第1回は各自に自由に自己紹介をさせて、他の者に自由に質問などさせて、それに対して、担当者が感想をのべる程度で結構でしょう。自己紹介が「ことばのトレーニング」の最初ということになりますが、これは場面作り(教室に慣れる・教師に慣れる・仲間と慣れる)という意味合いをこめます。第1回はあまり主題にこだわらず、親睦を深め、授業の方向性を

示してやってください。そのやり方・工夫は担当者の自由です。

☆以下は回を重ねるごとに短い主題のみを発言するようなことから始まり、

主題+主張（主観的・感想的）

主題+根拠+主張（やや客観的）

主題+具体例+結論（客観的・論理的）

というふうに、だんだん長い小論文的な（小論文とは言い過ぎで、作文に自己主張をこめたものと考えerべきかもしれません）段階まで進めます。だんだんと長い論理的なスピーチにしていき、そのスピーチのまとめのレポートが、最終的に1,000字程度の小論文的な（作文でも結構ですが）ものになるように指導します。

☆テーマ（課題）は、たとえば（あくまでも、たとえば）、

1, 自己紹介 2, 私の性格 3, 私の好きなもの 4, 私の家族 5, 私の住む町

6, 私の思い出（小学校） 7, 私の思い出（中学生） 8, 私の高校生活

9, 私の生きがい 10, 私の短大への期待 11, 私の卒業後 12, 私の未来

13, 自由課題（あるいは課題文を前もって与える・この課題を与えるということが小論文と言えるのかもしれませんが。したがって1から12は作文と言ったほうがよいかもしれませんね。小論文の授業は他にあるので、その前段階と考えておきましょうか）

というようなことが考えられますが、課題も担当者の自由で結構です。

☆基本的には、課題を与えてそれに対する感想を発言させ、それをレポートにまとめさせる、その繰り返しとを考えてください。その時に、必ず「私は～する（だ）」という自分なりの考え（主題・主張）を持たせて、それを次第に論理的に、長く発言し、文にまとめられるように指導します。自分の意見をことばで明確化させる授業であることをわすれずに。

☆以上、この授業については、土屋が責任を持ちます。よろしくお願いします。何かありましたら遠慮なくご質問やご意見をください。メールは「hiroei@mvd.biglobe.ne.jp」（自宅）「tsutiya@atomi.ac.jp」（短期大学部）です。

提言として、一つの科目を複数の教員が担当する場合、短いシラバスだけでは統一性はとれないと思う。このようにある程度詳しい解説を担当教員に提示する必要があるだろう。

二、授業記録

自己の、今回の授業の反省と次回の授業の進歩を考え、授業記録をまとめることにした。これは、本授業のみならず、担当授業のすべてで行った。これは、あらかじめ、授業内容を想定したものを授業前に作成し、それにのっとなって、授業をおこない、それを授業終了後に、未来・推量系で書かれた想定文を、過去・断定系に記録文としてまとめるというプロセスを

経て作成したものである。この、授業の想定と、授業の記録は、まさに教師の、授業への予習と復習と言うべきもので、教師としては、誰もが、こういう形式を何らかの形でもつべきであると思う。行き当たりばったり式ではまずい。

なお、以下の授業記録で担当クラスは、英語IC前半、である。

第1回（4月17日・土・2限）

- 1, 出席 26名だが、出席状況はまあまあ。欠席は3名、遅刻は0だった。
- 2, 自己紹介 人間はすべてタメであるという人生観を伝える。教師は学生を教えるという努力をしているから、偉いのであって、「教師」が偉いのではないということである。レッテルやブランドではなく、中身が大事ということを教えた。
- 3, 科目説明 キャンパスガイドにのっとなってわかりやすく説明。自分の考えを正確に伝えることが目標で、さらに自己を論理的に主張するきっかけとなるように。まず主述関係の認識が必要だ、などとのべた。
- 4, アンケート これは全授業で行うことにした。教師は学生の期待にこたえられなければならない。学生が何を望んでいるかもわからずに、教えることなどではししない。教師としての自己を高めるためである。批判されることを恐れていては進歩などありはしない。
- 5, 電子辞書 電子辞書が格安に買えるルートがあるので、宣伝した。ことばは辞書を引かなくては、という教師もいるが、辞書を引くありがたみよりは、語彙力を増やすことに重きをおきたいのである。希望者はかなりいそうである。
- 6, 自己紹介 担当教師の自己紹介をどう生かすか、というところを見てみたかった。自己紹介のポイントは、①氏名（ニックネーム）、②生年月日、③出生地、④学歴、⑤職歴、⑥現在（住所、家族構成、友人など、またホームページやメルアド、もしくはTELなど）、⑦趣味、⑧人生観（夢）、などといったところ。15秒スピーチでやらせたのだが、これが意外とうまいのでおどろいた。メモをしてスピーチするとよいこと。スピーチの限界が大体3分であることなどを述べた。
- 7, 反省 結構学生の自己紹介は長めだった。授業を熱心に聞いていない者がいたので、ノートを最後に見るぞ、と言ったら急に授業を聞くようになった。これは効果があった。

◎以上の授業記録は、何がよいかというと、授業についての作戦がたてられるということである。一定の方向性をもっているなので、無駄がなくなる。また、前述のごとく、予定とまとめをする形式だから、今回の反省と次回の展望がひらけることになり、大変な効果がもたらされると言えよう。

第1回は予定通り、常識的ではあるが、教員の側でも、学生にとっても「自己紹介」が主

となった。ただし、教員、学生ともに単なる自己紹介ではなく、目的意識をもった自己紹介であることが望ましい。教員は、やはり人生観を伝えたい。各自の自己紹介については、メモを取った上で発言。それが、すでに15秒スピーチになっている。さらにそれをレポート化するのだから、たいへん活動的な「ことばのトレーニング」だということができよう。

また個人的にアンケートも行うことにした。これは担当全科目でおこない、短大生の意識をさぐり、知り、それに応じた授業改革を目指すということである。これについては、ワークショップで発表した。

第2回（4月24日・土・2限）

- 1, 出席 声がうるさいので注意。机上のバッグや飲み物をかたづけさせる。
- 2, アンケート・電子辞書 前回欠席者にパンフと用紙を渡し、全員に確認するが、辞書を申し込んだものはなかった。
- 3, レポート講評 全員のレポートを1枚1枚丁寧に注意点を伝える。主に「かたち」、行かえとか、句読点とか文字そのものとか、という点を注意。
- 4, よい話し方 林四郎の「よい話し方」を、まず黙読させ、次に順番に音読させ、解説した。要点は、まず何を話すか考えて、明確に話す、ということ。
- 5, 私の性格（課題）全員口頭発表。メモをさせる。自分の性格を単語的にいくつも取り出し、それをもとに発表させる。なかなかうまい。中には30秒ほど話せる者もいる。まず自分の悪いところをあげて、次に逆接で長所を強調するやり方を知らせる。うるさい者がいたが、ノートを評価の対象にするといったら集中しだした。
- 6, レポート作成 口頭発表をもとに作成させる。まだ口頭発表をうまく文章に出来ない者がいるが、大体は上達のきざしが見える。学生によってはもうかなりコツをつかんでいる者もいる。
- 7, 反省 うるさいペアが2組ほどいる。お口チャック、机上にバッグや飲み物をおかないこと、人の発言はよく聞くことなど、注意。また具体例の活かし方を工夫させる。「小論文」の授業のミニ版を「ことばのトレーニング」と位置づけるとよいと考えた。ノートは取らせると集中力が増すのでよい。汚くてもとにかく分量を多くしろ、と指示する。文字はよくなった。「,」「.」は、はっきり書かせよう。まだ用紙の行の上下をつめてない者がいる。来週のテーマは「私の好きなもの」で、これは学生に伝えた。また、本日、この授業で身につけたことは何かを確認させる。

◎テーマは予定通り、順調に消化しているが、怖いのは教師の一人よがりであり、実際はそうではないのに、順調にいつていると思いついでいることであろう。自分がよい教師だと思いつ

んでいる教師ほど始末におえないものはない。これは自分に対する警句でもある。

この授業の特徴は、教師の側からテーマの提示があり、学生がそれをもとに考えをメモにとり、そのメモをふまえて口頭発表し、さらにレポートにまとめる、というプロセスを経るということ。つまり思考を口頭発表という形にし、文章という文字にまとめるというところにある。この2回目までは、まず予定通りである。

第3回（5月1日・土・2限）

- 1, 出席 うるさいので、静かにさせる。机上のものをかたづけさせる。筆記用具のみにさせる。連休中ということもあって欠席者が多いので、少しサービス、早めに終了しようと提案（よいことではない、反省）。ただし、その代わり集中して聞くこと、と交換条件（結果的には10分早かっただけ）。アンケートと辞書について申し込ませたが、今日は誰もいない。
- 2, レポート講評（全員）Aと○Aをとくに評価。○AのIさんとYさんのよさを述べる。みんなよく聞いている。Aと○Aの者には拍手。
- 3, 「私の好きなもの」をあげさせる。みんなに何個あげられたか聞く。みんなよくあげてくれた。最高29個。言葉を引き出すことが大切であることを教えた。時間には余裕があるのだから、今後はそれらの言葉も評価してあげたいと思う。
- 4, 口頭発表 うまくできた。その場で立たせて発表させたが、舞台などを設けて発表させたりするのもよいだろうと思った。また各自の口頭発表について友人に評価をさせるのも大切だと感じた。みなしっかり発言しているので、内容についてはよい。あとは話し方を考えさせたい。メモを棒読みするのではなくて「朗読」のように心をこめたり、ボディランゲージなども用いさせたい。最終的にはメモを見ないで発言させたい。もう30秒発言の粋に来ている。タイムも計測すべきかもしれない。
- 5, レポート作成 作成中に個人個人と会話をすべきかと思う。この空白な時間を学生とのささやかな交流にあてるべきだ。これは他の科目でも同じ。

来週のテーマは「私の家族」。

◎今回は、うるさいのをおさえること、これがポイントになった。学生達は授業開始を今や遅しと待ってなどいない。「さあ、5分前だ、」と身構える学生は皆無といってもよいだろう。そんな学生が一人でもいればおそらく、教室の雰囲気から、浮き上がっているはずだ。

学生を静かにさせる、静かに授業を聴講させる、というのは、おそらく短大のすべての授業の第一のポイントではあるまいか。

ここで、授業を円滑にすすめるための要素を考えてみた。一つは、よい結果を出した者は、積極的に評価し、ほめる、ということである。次に、トレーニングを实践させ、自分の潜在

的な力を顕現させるということである。また教師と学生の信頼感、これは毎回の授業で作り上げていくしかない。教師から、学生への言い分はあるだろうが、まず教師の側での反省を積極的に形にしていく必要があると感じた。

第4回 (5月8日・土・2限)

1, 出席 先週は連休で欠席者が多く、静かだったのだが、今週はほとんどそろっているの
でうるさい。しかし、怒鳴らないで、何度も「お口チャック」を言っておとなしくさせる。
ノートをつけろ、というのはよいことだ。今度はノートを買いにいかせたい。したがって出
席を取る間も、机上の整理、筆記用具だけにするとか、注意の連発。

1, アンケート アンケートも大部分が少し書くだけ。だからあっという間に終わってしま
った。1年生は書くことになれてない、ということが言えるのだろう。

2, レポート講評 うるさいので、静かにさせながら、人の話を聞くことの大切さ（話し上
手は聞き上手）を教える。○Aについては拍手、何とか講評を乗り切る。

3, 私の家族（今回のテーマ）キーワードをあげさせる。メモをさせた上で、これは着席の
まま言させた。

4, 口頭発表（30秒）これは立ったまま、しかもメモを見ないで言うようにさせた。皆なか
なかうまくできていて感心する。まだ見捨てたものではないかもしれない。

5, レポート作成 レポートは皆それぞれのレベルに応じて一所懸命書いている。やはり体
を使うというのはいいことなのだ。こういう作業で静かにさせる工夫をするとよいかもしれ
ない。注意点は「主題—具体例—結論」という構成を身につけていないことである。これに
ついては来週注意したい。

6, 来週のテーマ 「私の住む所」である。前もって提示しておいたが、何か宿題を出す必
要があるだろうか、考慮中。

7, 反省 静かにさせること、聞かせること、やっていることの意味を考えさせることに留
意したい。作業をさせると静かなのだから、それをうまく与えればよいということになる。
何とかやってみよう。

◎やかましさを、集中力のなさは、回をおってひどくなっていく。同一クラスなので、仲間意
識がましてくるからである。それを抑えるのに、怒鳴ることは極力さけるべきだと思う。幼
稚園児のように「お口チャック」は情けないが、4回目で早くも暗礁にのりあげた感じがす
る。しかし、口頭発表はまあまなので、期待できる面もある。できるだけ、好いところをと
りあげ、ほめながら進めていくしかない。作業をさせると静かになるから、やはり具体的に
何かをさせることは、短大の授業においては必要なことだと強く認識させられた。

第5回（5月15日・土・2限）

- 1, 挨拶 「ごきげんよう」を元気にやってもやはりうるさい。そこでかねての作戦どおり、メモ用紙を渡して、今の気持ち（とくに不満）を書かせる。
- 2, 出席 みんな思い切り書いていた。やはり肉体労働のほうがむいている（笑）。裏までかいている。この間に出席を取り終わる。辞書も確認。辞書を買うもの5人。
- 3, レポート講評 具体的に書く、行かえをする、という説明のところで、うるさいためついに切れる。しかし同情をひくような、うまい切れ方をしたので、学生は静まった。奇跡的！
- 4, 私の住むところ まずキーワードを書かせ、発表。「川」「山」などはキーワードとしてよいと感じた。
- 5, 口頭発表 さらに主題のかたち（AがBだ）にまとめさせ、30秒スピーチ。みなそれなりに発表してくれたのはうれしい。ただし30秒いかないものが3分の2はいた。もしもみな45秒スピーチになった場合は、かなり早目から口頭発表を始めなくてはならない。
- 6, レポート作成 みんな前回は上回る量ということでがんばった。最後はよかった。
- 7, 来週のテーマ 「私の思い出」（小学校）
- 8, 反省 うるさいのを静めるためにメモはよかった。うるさいので多少切れたのもよかった。とにかく学生もおだてるに限る。とにかくおだてる、ほめる。個人攻撃はしないにこしたことはない。

◎うるさいのは相変わらずで、こうなってくると、こちらも登校拒否児童のように、教室へいくのがおっくうになる。ストレスがたまる。10年以上前は、うるさい学生はわずかだったし、それも怒鳴ればそれで終わり、だったのだが、今は怒鳴れば逆効果になる。

そこで、工夫してみた。それが授業開始直後、出席をとるときのコメントシートの利用である。しかも、テーマが「不満」である。これはよかった。全員が思いっきり不満を書いていた。中にはシートの裏側までびっしり書くものもいた。

しかし、次の、前回のレポート講評のところでは、あまりの騒音に、ついに切れた、だが、切れ方がよかったみたいだ。「そんなに授業がつまらないのなら、みんなで残り1時間、瞑想をしようか」と大声で言ったら静まった。叱るのは、個人攻撃ではなく、教師も含めた連帯責任という意識が必要なのだろう。うるさいのは、授業の内容が学生のレベルに適合していないからであって、教師の側の責任も微量ではあっても必ず存在するということを、意識しておく必要があるのだろう。教師としての自分の能力にやや疑問を感じた。テーマは今のところ予定通り消化している。

第6回 (5月22日・土・2限)

1, 挨拶 「ごきげんよう」を皆で言う, しかしうるさい. 机上のものを片付けさせたり, 帽子をとらせたりしながら, メモ用紙を渡して, 今思うことを書かせる. 後で見ると, 今回は不満は少なかった. やはり一度書かせた効果はあるのだろう.

2, 出席 メモをとらせながら, 出席, ならびに辞書の確認. 前回電子辞書の注文が遅れたことのお詫び, 辞書購入者はさらに二人追加で計7名になった.

3, レポート講評 発表の基本, 「主題, 具体例, 結論」の流れの説明で個々に注意するのだが, これがうるさい. 聞いているのは当人のみといった状態である. 方法に問題があるのかもしれない. 個別批評はレポート作成時に行い, 代表的なもの2例くらいを全員にコピーして渡して, それを解説するほうがベターなのかもしれない.

4, 私の思い出 (小学生) 小学生のことなど忘れた, とか, 何を書けばいいの, というものが何人もいるのにはおどろいた. テーマに興味をもてないのだろうか. ならば, 「短大への期待」とか「何故この授業はつまらないのか」といった, 思い切った手段に出たほうがよいのだろうか. 来週は前期の中間点なので, 課題の反省を真剣に考えてみたい.

5, 口頭発表 ほとんどが30秒前後である. Iのみ1分15秒. この発表も前に出させてやらせてみようか, レポート講評を短くして発表に時間をかけようか, テーマを黒板に書いたうえで学生の名前も書いて発表させてみようか, ついでに写真もとらせたりしてみようか, あれこれいろいろとまよう.

6, レポート作成 今回は学会なので, このレポート作成時点で失礼させてもらった. レポートは完成したものから私の研究室に投函しておいてもらうことにする.

7, 来週のテーマ 私の思い出 (中学生) だが, 学生たちとテーマを考えてみようかと思う. ここで当初の予定の変更をすることになった. これは教師の柔軟性と考えてみたい. あくまでも, 最初の方針を貫くのは得策とは思えない. それは意固地である.

8, 反省 前述したように, 来週は中間点なので, 学生たちとお互いに, 思っていることを吐き出しあって, 協力してこの授業を楽しく, しかも実りあるようにしていきたい.

◎授業開始時は静かだったのだが, レポート講評ではまたうるさくなった. 第1回からずっと, 全員のレポートの講評を出席番号順に行っていたのだが, どうも自分の講評時以外は, 自分と無関係だと考えてしまうようだ. 他人の考えを知って自分の考えにプラスしようなどという向学心はない. 聞く気がない. そこで講評の仕方を変更しようと考えてみた. 個別批評は, 今回レポート作成時に, 前回の添削したレポートを各自に返却しながら, 簡潔に, マンツーマンでしようというのだ.

次回からは代表的なレポートを2名のみ取り上げ, コピーして全員に配布し, そして全体

に講評する。教師は授業の流れによって臨機応変に対応しないといけないと感じた。授業が停滞したら終わりである。意固地ではなく、柔軟な姿勢が望ましい。

実は今回の「私の思い出」というテーマに積極的に取り組めない者が複数いた。これにはおどろいた。思い出がないとでもいうのだろうか。そこで、また反省。来週は中間点（授業回数13回として）なので、思い切った改善策を取り入れてもよいかと考えるにいたった。予定していたテーマは、変更も視野にいれなくてはならない。反省ばかりである。

第7回（5月29日・土・2限）

- 1, 挨拶 早朝、席を移動させた。出席番号順に、好きなもの同士が並ばないように、考えてみた。これはまあまあおしゃべりを防ぐ効果があった。工夫はするものである。
- 2, 出席 出席の合間にメモをとらせる。本学の評価を5段階でさせ、さらにどうしてその評価なのかを考え、メモさせる。
- 3, レポート講評 今回は全員の講評はやめて、Kのレポートのみコピーして全員に配布。どうしてKのがいいか、考えさせ、さらに意見を言わせた。これは結構よかったかと思う。
- 4, 課題 本来は「私の思い出（中学生）」であったが、それは宿題として課し、授業では思い切って「跡見短大の評価」に変更した。
- 5, 口頭発表 言いたいことをいわせた。勝手な言い分もあるが、もっともだという発言もあった。みんな吐き出させて、改善できるものはそうしてみたいと思う。なんたって学生が主なのだから。でも結構しっかりと真剣に発言していたのでよかったと思う。
- 6, レポート作成 いつにもましてみんながんばって書いていた。
- 7, 来週の宿題 「私の思い出（中学生）」が宿題。そしてテーマは、予定では「私の思い出（高校生）」だが、「ことばのトレーニング」をおもしろくするために、とか再び変更してもいい。やはり学生主体であることをいつも忘れてはならないと思う。
- 8, 反省 席を変えたことはよかった。意外とみんな「跡見の評価」に真剣に取り組んでいた。来週は「ことばのトレーニング」にチャレンジさせてみようと思う。

◎うるさを絶つために1週間かけて考えついたことを実行した。早朝、誰もいない教室で、26名分の机をコの字型になおし、黒板に出席簿順に座るように指示しておいた（一時、掃除のおじさんによって消されてしまったのであわてたが）。教師はそのくらいの具体的行動をしないと、短大生には受け入れられないだろう。教室のレイアウトも自分で行うという積極性が必要だ、ということだ。つまり、教師には具体性が必要なのだ。授業においてもそれは同様で、抽象的な、観念的な、哲学的な、それだけに終始する授業は、短大においては、という条件付きで、もう古いといってよいだろう。

学生は、「大学に来てまで席順を決められるなんて」とぶつぶつ言っていたが、これは大効果があったことは言うまでもない。

第8回（6月5日・土・2限）

- 1, 挨拶 チャイムより少し早めに行き、授業への導入をスムーズにするために、机上のチェックかつ静かにさせる。「ごきげんよう」の挨拶を皆でする
- 2, 出席 出席の合間にメモをとらせる。「ことばのトレーニング」を楽しく面白く役に立つようにするにはどうしたらいいか、を考えさせた。また、この間に宿題を回収する。
- 3, レポート講評 今回は全員の講評はやめて、Yのレポートのみコピーして全員に配布。どうしてYのがいいのか、考えさせる。
- 4, 課題 本来の予定では「私の高校時代」であったが、それは宿題と課して、思い切って「ことばのトレーニング」に変更した。
- 5, 口頭発表 言いたいことをいわせた。勝手な言い分もあったが、言われて、なるほど、と思うところもある。我慢して、みんな吐き出させた。自分が反省して、よくできるものはそうしてみたいと思う。なんたって学生が主なのだから。科目は存在するのだから、面白く楽しく、役に立つ、その方向を考えなければならない。演習的な授業では課題はとくに大事だと感じた。授業方式についても意見があった。予想より中味はよかった。
- 6, レポート作成 今回も、がんばって書いていた。ここでレポートなど全員に返す。
- 7, 来週の宿題 「私の思い出（高校生）」が宿題。また来週の課題は、予定では「私の生きがい」だが、今回同様、変更を考えている。やはり学生主体であり、学生が興味をひかれる課題でなくてはならないと思う。
- 8, 反省 「ことばのトレーニング」の改善に真剣に取り組ませてみた。教師としても言わせてよかった。来週の課題も1週間よく考えてみたい。

◎授業の3分前に教室に行くのが、恒例となった。早すぎるのもどうかと思うが、教師はチャイムが鳴った時点では教室にいるべきだと思う。時間は守るべきだという姿勢を日常の中で具体的に態度で見せるべきであると思う。教師の、具体的な実践があって初めて学生も守れるのだ。これは時間ばかりではない。観念的な偉そうな、お説教する暇があったら、具体的にレポートを読み、具体的に評価してやることだろう。

さて、テーマは変更された。「ことばのトレーニング」への意見である。書かせれば、不満ばかりだろうし、ということは担当教師への悪口のオンパレードになることは間違いない。考えてみれば教師ほどプライドの高い職業というのではないのかもしれない。短大ではとくにそうだ。自分の領域は自分だけのものであり、他人の口出しを認めない。直接の上司はいな

いし、皆が暗黙の了解で、自己を完結してしまっている。

しかし、教師だとて人間なのだ。神ではないのだ。自分が全知全能であると神格化すると自体がおかしい。不足があって当然。学生の批判は積極的に受け、悪いところは改める、という姿勢が必要ではないか。もちろん学生の悪いところも指摘することは大事だがまずは自分の側から非を認めることであろう。

今回の授業は、自分にとって、短大教師生活において、大化の改新か、明治維新か、といった非常に重要な、エポックメイキングな授業となった。

第9回（6月12日・土・2限）

1, 挨拶 最近の傾向どおり少し早めに行き、机上のチェックをし、静かにさせる。少々早く始めて少々早く終わるようにする。

2, 出席 出席の合間にコメントシートを渡して、今度は「ことばのトレーニング」を楽しく面白く役に立つようにするにはどうしたらいいか。前回の課題をさらに考えさせてみる。いくつでもあげる。またそれ以外、何を書いてもよいことにする。思考は、まず考え、書くことによってまとまる。また、この間に宿題を回収する。

3, レポート講評 批判の要点は、声が大き、雑談が長い（途中で発言しない）、怒らない、早めに終わる、ゲーム感覚をいれる、グループディスカッションをする、ゆっくり考え、ゆっくり書く、発言は全員でなくてよい、宿題はやめる、など。

今回は全員の講評はやめて、SとMのレポートのみコピーして全員に配布。彼女たちの、どこがよいかを考えて発表。全員ではなく（学生の意見とおり）5名ずつ意見を述べる。

4, 課題 本来は「私のいきがい」であったが、それは延期して、今話題の少女殺人事件をとりあげる。5名発言。さらにプリント配布。4名ずつの班に分かれ（6班）、今日の班長を決める。毎回班長は変わる。本日の班長は皆で決定。話し合い、班の意見をまとめ、班長が発表し、残っているものにさらに各班の発表をふまえ、発言させる。さらにプリントを配布し、それをみながらまとめとする。

5, 口頭発表 グループで自由に発言させる。担当教員は補佐役で、各班をまわってどのように討論しているかを聞き、アドバイスを。スピーチは班長が中心だが、これが1分スピーチになっている。最終的には全員が班長になるわけだから、問題はない。

6, 宿題 宿題はなし（学生の意見により）。来週の課題は本来「私の短大への期待」だったが、やはり変更して、学生が興味をひかれるものにしたい。

7, 反省 前回の授業では、本授業の批判を中心に書かせたが、今回の授業の最初のコメントシートでは、改善策を書かせた。批判ばかりではなく、ならばどうする、という建設的な方向を与えた。これはなかなかよかったと思う。教師の授業のやり方の批判は簡単だが、で

は実際にどうするか、となると思案が必要となる。評論家は簡単に批判をするが、実際に小説一つ書くのは難しいのである。

◎レポートは、担当教員である自分への批判が中心だが、思っていたよりひどくはなかった。批判については、記録に記したとおりだが、それを読み上げ、「声が大きくなるのは、君たちがうるさいので、はりあげなくては皆に聞かせることができない、声を小さくする代わりに、君たちも静かにしてほしい」といったように反省と注文をつけた。

今回の授業が、本授業の改革となった。学生主体という方向が明確に打ち出された、これは、教師が授業の責任を放棄したというわけではなく、学生の実情にあわせて授業を有効に、効果的になるように工夫するということだ。いくら理想を言っても、学生に何らかのプラスがない授業など今の短大には必要はない。

第10回（6月19日・土・2限）

- 1, 挨拶 いつも通り、少し早めに行き、机上のチェックをし、静かにさせる。「ごきげんよう」の挨拶を大声でする。挨拶にも大分慣れてきた。こういうよい挨拶をどうしてもっと全学的にしないのだろうか。不思議だ。
- 2, 出席 漢字テストを配布（学生の要望）。それを行なわせている間に出席をとる。
- 3, 漢字テスト講評 前回の解答も含め、解説。漢字・日本語の面白さを味わわせる。知ってよかった！となるように。
- 4, レポート講評 今回も全員の講評はやめて、KとSのみコピーして全員に配布。どこがよいかを考えて発表。5名ずつ意見を述べる。
- 5, 課題 本来の予定では「私の短大への期待」であったが、それは延期して、今回は今話題の少子化をとりあげる。5名発言。さらにプリント配布。4名ずつの班に分かれ（7班）、今日の班長を決める。毎回班長は変わる。本日の班長は皆で決定。話し合い、班の意見をまとめ、班長が発表し、残っているものにさらに各班の発表をふまえ、発言させる。目標は1分。さらにプリントを配布し、それをみながらまとめとする。これは前回と同じ。
- 6, 口頭発表 討論はグループの自由とし、担当教員がアシストをするのも前回と同じ。

全員が班長をやることによって、1分間スピーチは完成する。これも同じ。討論、班でのまとめ、班長の発表もなかなかうまくいっている。班のレポート（まとめ）も提出させ、判定する。

さて、最後の2回（13・14回）は3分間スピーチにチャレンジをすることにする。テーマは延期していた「私の生きがい」と、あらたに「私の幸福論」を考えた。これは好きなグループでまとまって、あらかじめ、代表者が発言するか、優秀作品を書いたものに発言させる。

それを皆で相談してもよい。たとえば、○Aを多くとっているものからとか。それを学生に伝えた。

7, レポート作成 皆のレポート作成のスピード, 内容, 文字などの成長は著しい。その間に, 一言付け加えながらコメントシート, レポートなどを無駄なく全員に返す。

8, 来週の課題 「就職」は, 自分にとってどのようにあるべきか。そこから, 女性にとってどうあるべきかを考えてはどうだろうか。

9, 反省 グループディスカッションの班長は各自の意見を短くまとめ, さらに全体のまとめをメモにして, それを元に発言させたほうがよい。最後にはそのメモを提出のこと。まだ統一がとれていないようなところもあるので, 来週は確認させたい。

11回(就職), 12回(結婚), 13回(私の生きがい), 14回(私の幸福論)として, 11・12回は1分間(班長), 13・14回は3分間スピーチにチャレンジ, 13回にはノートをみることなどの予定を伝えた。

◎学生の意見を受けて, 今回は漢字テストを導入した。学生の案でもよいものは積極的に受け入れる姿勢だ。またグループディスカッションも取り入れた。班に分け, 班長を決め, 討論をし, 各班で, 班長が責任を持ち, 発言し, レポートにまとめる, という形式である。班長は交代制で, 全員が一度は班長になるので, 班長の発言は班全体の意見をまとめることになり, 結果的に1分間スピーチに相当する発言ということになった。つまり当初予定していた1分間スピーチは方法こそ違え, 結果的にその目標を達成することができた。来週のテーマは, 学生に興味あるものとして「就職」とした。

第11回(6月26日・土・2限)

1, 挨拶 いつもどおり, 少し早めに行き, 机上のチェック, また静かにさせる。本日はオープンキャンパスの日で, 受験生の見学があるかもしれないので注意するよう伝える。

2, 出席 今回は新たに新聞記事のコピーを配布。それを読み, コメントを書かせている間に出席をとる。出席をとった後, その記事について5名ほど(26番から)発言。

3, コメントシート講評 O, KA, KR, のを読む。あと○Aは, KB, T, Y。

4, レポート講評 今回も全員の講評はやめて, Oのレポートのみコピーして全員に配布。どこがよいかを考えて発表。5名ほど(出席番号21番から)意見を述べる。

5, 課題 本来は「私の卒業後」であったが, それは延期して, 「女性の就職」, をとりあげる。コメントシートの裏側を使い, まとめる。5名(出席番号16番から)発言。さらに余裕のある者には, 新聞記事からのプリントを配布(ジェンダーについて)。今回は4名ずつの班に分け(7班)た。今日の班長を決める。各班の発表をふまえ, 班長に発言させる。目標は1

分。なお各班はまとめを提出し、担当教員は班の評価もする。これは前回と同じ。

4, 口頭発表 グループディスカッションも板についてきた。全員が意見を言うことはもちろんだが、班長の責任において各人の意見をまとめることと、それを各班で全体的にどうまとめるか、というところがポイントで班長の役割は重大かつ有意義である。一分間スピーチは終了に近づいている。最後の2回（13・14回）は3分間スピーチにチャレンジ、今から心構えをするように伝える。1分間レベルと3分間レベルで行うことを伝える。

5, レポート作成 班で話し合ったことをふまえ、全員、しっかり書いている。書くことと発言することに抵抗がなくなってきたようだ。その間に、コメントシートや、レポートなど全員に返す。作成中に漢字テストなど配布し、余裕があるものには挑戦させる。

6, 来週の課題 「結婚」は、自分にとってどのようにあるべきか。真剣に考えさせたい。

7, 反省 グループディスカッションの班長は各自の意見を短くまとめ、さらに全体のまとめをメモにして、それを元に発言させたほうがよい。最後にはそのメモを提出させる。大体グループディスカッションはうまくいっている。残りあと1回となった。

◎グループディスカッションは、皆結構熱心にやっている。学生の意向を聞いて取り上げてよかったと思う。テーマも抽象的なものよりは、具体的で、自分と深く関わりがあるほうがよいと感じた。関心があれば、それだけ熱心に、深く追求する姿勢が生まれるからだ。

あらかじめ立てる予定はもちろん必要だ。予定がなければ方向性は生まれない。ただ、その方向性を頑なに守り続けるというのはどうだろうか。それこそが自分自身の慢心というものではないだろうか。授業の流れにより、臨機応変に対応する、柔軟性が必要である。学生の状況に対応した、授業の改善は毎回のように、おこなうべきだと思う。授業のベクトルという根幹は守りながら、それを伝えるテクニックの面で。

第12回（6月29日・土・2限）

1, 挨拶 いつも通り少し早めに行き、机上のチェック、また静かにさせる。その後、「ごきげんよう」の挨拶を大合唱。

2, 出席 新聞のプリントを配布。それを読み、コメントを書かせている間に出席をとる。出席をとった後、5名ほど（出席番号26番から）発言。

3, コメントシート講評 O, KB, KR, MOを読む。あと○Aは, O, KA, SI, YJ, YN, YO.

4, レポート講評 今回は全員の講評はやめて、SA, TAのみコピーして全員に配布。どこがよいかを考えて発表。5名ほど（出席番号21番から）意見を述べる。あと○AはKA, KB, SI.

- 5, 課題 本来は「私の未来」であったが、それは延期して、「女性の結婚」をとりあげる。コメントシートの裏側を使い、まとめる。5名（16番から）発言。さらに暇のある者には新聞記事のコピーを配布。4名ずつの班に分かれ（7班）、今日の班長を決める。以下同じ。
- 6, 口頭発表 グループディスカッションも今日が最終回。全員が班長をやり、班の各自の意見をまとめ、全体のまとめをして、それをもとに1分間のスピーチをおこなった。1分間スピーチの完成ということで、ほっとした。
- 7, レポート作成 レポートは皆うまく書いている。1回目と比べれば比較にならないスピードと内容である。その間、コメントシート、レポートなどを全員に返す。作成中に漢字テストなどを配布し、余裕がある者には挑戦させる。
- 8, 来週の課題 「私の幸福論」。クラスの後半がこの課題にチャレンジ。今までの実績により、1分レベルと3分レベルにわけ、それぞれ下書き用にレポート用紙を配布。1枚で1分強、2枚半で3分程度、という目安を与える。
- 9, 反省 グループディスカッションも最後となった。各班の討論も、班長のまとめもなかなかよくなった。うまくここまで導いてこられた、とほっとする。

◎最初に配るプリントは、最新の新聞から、学生にとって面白い、興味のひかれるものを取りあげた。それをコメントシートに記す。担当教員である自分もよい記事はないかと4大新聞を読む癖がついた。ところが意外とそういう記事は少ない。だが、そうやって見つけた記事は、発見の喜びがある上に、実際学生が興味を持つから不思議だ。当然のことだが、教師の側の不断の努力の必要性を改めて感じた。今頃何だ、と批判されそうで恥ずかしいが。

来週はいよいよ2回にわたる、3分間スピーチの開始である。やっとここまでたどりついた、というのが正直な気持ちである。

第13回（7月10日・土・2限）

- 1, 挨拶 いつもどおり少し早めに行き、机上のチェック、また静かにさせる。しかし、今日は何となく皆緊張感が漂っていて、うるさくない。彼女たちもメインイベントだと思っているのだろう。
- 2, 出席 いつもどおり新聞のプリントを配布。それを読み、コメントを書かせている間に出席をとる。出席をとった後、5名ほど（26番から）発言。
- 3, コメントシート講評 OD, KB, KR, MO, YNのを読む。
- 4, レポート講評 今回は全員の講評はやめて、OO, SAのみコピーして全員に配布。どこがよいかを考えて発表。5名ほど（21番から）意見を述べる。あと○AはIK, OD, KA, TK, MO, YN。ここらへんで一休み、短大用のアンケート調査と、ノートのチェックを行

う。

5, 課題 「私の幸福論」. 13番Tから26番Yまで, それぞれ3分が目標. 3分目標者は2分以上, 1分目標者は1分以上を目指し, 全員3分に近づくようにする.

6, 口頭発表 全員を, タイムを計りながら, 発表させる. 発表者は前に出る. 評価は, 態度, 話し方(音声)・内容を, ABCで判定. 判定者は担当教員を含み, 来週発表の者. 欠席者は来週にまわす.

7, レポート作成 今日の発表を聞いて, また発表をしてみてどんな感想をもったか. 自分の気持ちを素直に, 書かせた. 発表者は, ほっとした, 何か一つやりとげた, という感想. 判定者は, 皆発表がうまいと感心していた. その間, コメントシート, レポートなど全員に返す. 作成中に漢字テストなど配布し, 余裕ある者には挑戦させた.

来週の課題 「私のいきがい」. 発表者はクラスの前半. 今回は発表者同様, 事前にレポート用紙を配布する.

8, 反省 今回もなかなかよかった. 学生に緊張感があり, 聞く者も真剣に聞いて判定していた. 発表の仕方と, 聞き方, さらに他人の発表の評価と自分の発表の反省, そしてそれを記録するというトレーニングの総まとめにさせたい. 有終の美を飾りたい.

◎総仕上げの3分間スピーチということで, まるで決勝戦のように皆が緊張しているのが手に取るようにわかり, それだけ緊張してくるということに, 担当教師として, なぜか言い知れぬ感動を受けた.

スピーチの発表者は全員レポートにまとめてきていた. 1分目標者はなるべく2分に近づくように, 3分目標者はなるべく3分に近づくように, という方向で, あらかじめ, 書かせたのである. 1分目標者は600字以上, 3分目標者は1500字以上書いていた. これで, 最終的に, 1000字程度の小論文的なものを書かせるという目標もほぼ達成された. またタイムを計測したのも, 皆が真剣になってよかったと思う. ノートのチェックも行ったが自分が書いたレポートやコメントシート, また配布した資料の大きさに皆驚いていた. 具体的な量の多さが学生にインパクトを与えたと思う. 授業にかかった時間の量, 関わった資料の分量など, 具体性は必要なのである.

第14回(7月17日・土・2限)

1, 挨拶 恒例の, 少し早めに行き, 机上のチェックや静かにさせることも最終回. 感無量であった. 前回にもまして今回は緊張感が強く漂っている.

2, 出席 いつもどおり新聞のプリントを配布. それを読み, コメントを書かせている間に出席をとる. 出席をとった後, 5名ほど(13番から)発言. さらに出席をとってから, 皆勤

賞の発表！何も与えるわけではないが、最大限の賞賛のことばを伝えた。

3, コメントシート講評 KBのを読む。

4, レポート講評 今回は全員の講評はやめて、MO, YJのみコピーして全員に配布。どこがよいかを考えて発表。5名ほど（出席番号21番から）意見を述べる。あと○AはYA。

5, 「私の幸福論」発表 全員の判定によると、3位YA, 2位TM, 1位MK, となった。
全員で拍手。

6, 課題 「私の生きがい」。前回欠席のYJ（彼女だけ「私の幸福論」）がまずスピーチし、今回は、1番AYから12番SAまで、それぞれ3分が目標。3分目標者は2分以上、1分目標者は1分以上を目指す。

7, 口頭発表 全員を、タイムを計りながら、発表させる。発表者は前が出る。評価は、態度、話し方（音声）、内容を、ABCで判定。判定者は先週発表済の学生。前回と同じである。

8, レポート作成 今日の発表を聞いて、また発表をしてみてどんな感想をもったか。自分の気持ちを素直に書かせた。内容的には前回と同様、発表者はほっとして、判定者は感心していた。その間、コメントシート、レポートなどを全員に返す。作成中に漢字テストなど配布し、挑戦する者にはさせた。

9, 反省 発表の仕方と、聞き方、さらに他人の発表の評価と自分の発表の反省、そしてそれを記録するというトレーニングの総まとめにした。発表者以外を判定者として参加させたのはよいアイデアかと思う。有終の美を飾れたと思う。

◎今回が最終回なので、皆勤賞も発表した。休まずに来ることがまず大事なことであることを教えたかった。人生は、まず形をしっかりする、それが優秀なレポートを書くよりも重要であることを最後に知らしめたつもりである。スピーチは、クラスの仲間の判定である。もちろん担当教師の自分も採点したが、判定の違いはほとんどなかった。発表者も真剣であり、採点者も、それに影響されて真剣になったということか。とにかく、本授業の批判をさせたあたりから、授業の雰囲気はよくなり、最終回もとてもよい感じでスピーチは始まり、そして終了した。今回の発表は、レポートの優秀者が多いので、前回にもましてよかった。優秀の美を飾れたと思う

四、終わりに

次にあげるのは、授業終了後、スピーチ結果をまとめ、英語の副手さんをお願いし、学生たちにわたしたものである。なお、タメの精神を活かすため、私は自分を、「つっちー」と呼ばせている。いつまでも学生に親しみやすい教師でいたいという願いからである。

ことばのトレーニング まとめ 2004年7月 土屋博映ことつちー

☆英1Cのみなさん、「ことばのトレーニング」、ごくろうさまでした。いろいろ暖かいことばをくださりありがとうございます。でも、本当は、つちーのほうがみんなから教わっちゃった気がします。つちーにとっても、とてもためになる授業でした。みんなの「ことば」の成長はすばらしかった。自信をもってください。心から感謝をこめてそう言いたいです！

[スピーチ結果]

★第1回 「私の幸福論」 皆勤賞

T・R	1分02秒 (1分目標)
T・M	2分38秒 (3分目標) 第2位 (8,33点) ○A 8回
T・A	1分45秒 (1分目標) ○A 1回
T・J	1分16秒 (1分目標)
N・N	1分20秒 (1分目標) 1分クラス1位 (7,89点)
M・K	2分29秒 (3分目標) 第1位 (8,56点) ○A 3回
M・R	1分33秒 (1分目標) ○A 1回
M・Y	1分25秒 (1分目標) ○A 3回
Y・M	0分52秒 (1分目標) ○A 2回
Y・Y	1分29秒 (1分目標) ○A 1回
Y・A	2分27秒 (3分目標) 第3位 (8,11点) ○A 8回
Y・U	2分34秒 (3分目標) ○A 4回

★第2回 「私の生きがい」 皆勤賞

A・Y	1分21秒 (1分目標)
I・A	5分02秒 (3分目標) 第3位 (7,89点) ○A 10回
O・M	1分17秒 (1分目標)
O・A	2分52秒 (3分目標) ○A 5回
O・O	0分50秒 (1分目標) ○A 3回
K・Y	1分57秒 (3分目標) 第2位 (8,11点) ○A 6回
K・T	2分29秒 (3分目標) ○A 2回
K・A	3分38秒 (3分目標) ○A 1回
K・S	1分28秒 (1分目標)
S・H	1分25秒 (1分目標) 1分クラス1位 (7,78点) ○A 1回
S・Y	4分10秒 (3分目標) ○A 5回
S・A	3分08秒 (3分目標) 第1位 (8,33点) ○A 4回

以上です。第2回は、厳しく、というつっちーの注文と、前に出てきてやる、ということから少々点が低くなっていますが、立派なものです。つっちーは全員に総合点で○Aをあげたい！みんな、ごろうさま、みんなの文は永久保存版にしておきます（笑）

これは全授業終了後、スピーチの結果と皆勤賞、レポートの成績をまとめたものである。

これによって、本授業は完了したが、これだけ熱の入った授業は短大生活で初めてと聞いてよいかも。それは、自分に科目設定者としての責任感があったからだろうと思う。

新設の「ことばのトレーニング」は、コア科目の一つであり、最重要科目の一つでもある。その新設に中心となって関わったものとしてやはりよい授業にしたいという思い、また担当の先生方に責任ある方向性を示さなければならないという思いが強かった。

自分の能力としては、精一杯計画し、全力で、授業という実践に取り組んだ、その始末記としてここに文章として残したかったのである。言いたいことは、既に述べたが、最後にまとめておくと

1、計画はたてるべき、その根幹となる方向性はまもるべき、しかし臨機応変に内容を変更するという柔軟性が必要である。

2、教師としてのよい意味の威厳は必要、しかし、プライドだけで、自分をまもり、学生の状況を考えもせず、意見をきかないのは傲慢である。

3、学生は実践あるのみ、実践をとおして、自分を見つめ、表現をしていくようになる。

4、教師は、抽象的ではなく、具体的に学生を導く、それも明るく、元気よく、積極的に。

これらは自分の未熟なことを棚に上げて、「ことばのトレーニング」という授業をとおして、本科目の内容から、さらには短大の授業はどうあるべきか、まで、考えを述べ、短大の授業の向上を願った論である。来年度の本科目また他の科目の改善に役立てていただければさいわいである。

五、参考（最終回の学生の感想から一部抜粋）

○感想1（M・Oさん）

みんなのいろんな「生きがい」が聞けてよかった。中でもKさんの発表にすごく感動し、もらい泣きしそうになった。私は何のうらみもないのに、すぐ母親に当たってしまい、いつも口げんかをしてしまう。でも今日Kさんの発表を聞いて、親がいる幸せ、けんかできる幸せを痛感した。私はずっと親にたいして「育ててくれてありがとう」なんて思ったことがなかった。でも私もKさんと同じで赤ちゃんの時病気ばかりしていて、骨と皮のような子だった。でも今では「どうすればやせられるんだろう？」と思うくらい太った。いや、太れたのだ。それはここまでに元気な子に育ててくれた両親のおかげだ。

私は今日から親への感謝の気持ちを持って生きていこうと思う。もうバガみたくないけんかはしない。これを機に、ちょっとした親孝行でもしてみよう。

○感想2 (A・Sさん)

今日は緊張した!! でも、いい経験になった。人生の中に適度な緊張は必要だと思った。最初に、この授業を受けた時、正直なんかめんどくさそうだなあと思った。でも、授業を受けるたびに、そういう気持ちは段々なくなって行って、最後は自分を見詰め直すいい機会だったと思えた。この授業を受けなかったら、気づかなかったこともあっただろうし、感謝しています。

短い間だけどありがとうございました。

○感想3 (R・Tさん)

今日で最後なんて不思議な感じ。あんなに土曜に学校来るなんて苦痛だったのにいつのまにか普通に来ていたと思う。字はあいかわらず汚いし、○Aも一回もとったことがなかったけど、文章うまくなっていいればよかったと思う。つっちい~~~~~ありがとう。

「はじめはどうしようかと思っていた」授業だけども乗り切れてよかったです。

○感想4 (A・Sさん)

今日で最終日なんて今知りました…早いんですね~今日初めてみんなの前で3分スピーチをして3分って長いなどはあんまり思わなかった。上手くしゃべれたことはともかく、話して楽しかった。自分の言葉で話せたけど、もう少しまとめられたら良かったと思った。でもこの授業がなければ、私は文章もあまり書けないままでいたと思うし、スピーチなんて3分は絶対もたなかったと思う。

自分のことを紙に書くことで生きがいというか中学のころとかいろいろなことを自分で見つけ直せた。この授業は私はあって良かったと思う。

話すことも、文章を書くことも、たった十四回の授業だけど、学ぶことがたくさんあったし、何より先生にほめてもらったことがうれしかった。ありがとうございました。

○感想5 (M・Tさん)

とても面白い授業だった。これでもうつっちーに会えなくなるのがなんだかちょっと淋しいくらいだ。

実を言うと私はこの授業が嫌いだった。なぜなら私は自分を少しでも周囲の人間にさらすことが一番嫌だったからだ。でも、文を一つ一つ書いていくうち、「私はこんなことも考えていたんだ、あ!こんな私もいるんだ。」ということに気付いた。そんな考えてもいなかった自分自身がだんだん好きになっていった。この授業のおかげで自分が着ていた鎧みたいなものを脱げたような気がした。

本当にたくさんのことを学んだ。つっちー、ありがとう!!

○感想6 (K・Mさん)

この授業は今日で終了です。一番はじめの方は正直つっちーの事が苦手でした。でも、今では、本当に授業が終わってしまうのが淋しいです。授業で○Aをとった人とかに拍手をしたりしてて、なんか、はずかしいことしてるなあと、しらけた気分でしたのですが、自分をはじめ拍手をもらった時、とてもうれしく感じて、また頑張らなくちゃと思うようになりました。私は自分の好きな事は頑張る方ですが、好きでない事は手もつけないような子なのに、勉強のことで、こんなにやる気がでたのははじめてでした。

私は英語専攻なので、きっとこういうような、作文みたいなものを書く機会はとても少なくなってしまうのでとても淋しいですが、この学校で、ことばのトレーニングの授業をうけれ(ママ)で本当によかったと思っています。

たのしかったです。ありがとうございました。

○感想7 (A・Yさん)

今までたくさんいろいろなテーマについて勉強してきたけど、昔の若い頃の思い出とか、今後の自分の事だとか、たくさん考えて、今まで作文力とかまったくなくて、自分でも困ってたけど、つっちーが上手になったってほめてくれるから、私は自信をもてました。ありがとう(ママ) ございました!!

さみしくなるけど、「ことばのトレーニング」で学んだ事を頭にたたき込んで、自分にも自信が持てるようにがんばります。

へたくそな文に○Aくれてありがとうございました。私、今まで2回みんなの前で発表したけど、今までは、はずかしくて、笑ったり、挙動不審だったりしたけど、最後の発表は自信を持って発表できた。

ありがとう!

(本学教授)